

施 策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-07-572
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	①歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 ②歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ～		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市内外からの見学者			国史跡五郎山古墳及び古墳館における下記の事業を行い、学習の場としての適切な公開活用を図るとともに、見学者等の学習要求に応え、館の運営を行います。開館時間（9:00～17:00、月曜日休館）、入館料無料 ①古墳の出土資料等の見学・学習映像の視聴 ②可動式実物大模型による古墳石室体験・細部見学 ③タッチパネルによる装飾古墳の学習 ④学校休期間における装飾古墳等に関するイベントの実施（ストローを管玉に見立てたアクセサリ、壁画の文様を貼る某の作成他） ※ストーンアートについては博物館で実施 ⑤小学校等の団体見学 ⑤装飾古墳関係図書閲覧・解説パンフレット（多言語）等の提供						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
五郎山古墳をはじめ、九州の特徴でもある装飾古墳への公開活用を行い、地域の歴史・文化の学習意欲を喚起し、地域の歴史文化に対する理解を深めます。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
来館者数		人	3,797	4,410	4,500	5,000			
装飾古墳アートイベント参加者		人	708	795	700	700			
5. コスト									
事業費	計	千円	7,680	8,530	9,686	10,750			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0			
	一般	千円	7,680	8,530	9,686	10,750			
正職員人工数		人工	0.4	0.3	0.2				
正職員人件費		千円	3,091	2,345	1,605				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	10,771	10,875	11,291	10,750			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
○あがっている	令和5年度の来館者数は4410人で昨年度の3797人と比べ613人増加しました。特に子どもが930人から1424人と494人増となりました。新型コロナウイルス感染症が第5類になったことで、小学校の受入れが可能となり、近隣の3校の来館があったことなどが入館者増に繋がったと考えます。しかし石室保護のため石室一般公開の中止や（H30：215人）、タッチパネルを2基設置したことにより従来のイベントスペースが確保できない（現在6席のみ）ため、以前の入館者数には及びません。イベント以外								
●どちらかといえばあがっている	の来館者を増やすため、PRチラシの製作に加えて、博物館でのストーンアートの実施、パープルプラザフェスタで五郎山古墳ブース設置するなど（R04～）、古墳館の利用促進を図るための事業を展開しています。								
○あがっていない（停滞・低下）									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	地域の歴史文化の理解を深め、学習意欲を喚起していくことを目的とした学習施設（五郎山古墳ガイド施設、市歴史博物館分館）と位置づけをしており、利用料については無料としています。さらなる入館者増を図るためには、石室一斉公開にかわる五郎山古墳（館）での新たなイベントの検討が今後必要と考えます。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性 ●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了					
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
市内在住者の来館を増やすためには、地元の原田地区以外の地域での認知を高めることが必要だと感じます。今後も継続して博物館でストーンアート等の体験イベントの実施や、パープルプラザフェスタで五郎山古墳ブースを設置するなど、広く市民に装飾古墳の魅力を伝え、古墳館への来館を促したい。									
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄					
平成13年度開館。 平成28～令和元年度 保存整備事業を実施。 （古墳館の映像設備等の改修は令和元年度に実施） 令和3年5月18日で開館20周年				石室保護のため、令和2年度から実物古墳石室の一般公開を中止					